



生徒たちが創るみどりの空間

参加型環境教育「たかまつの森を育てようプロジェクト」



活動の目的

港区立高松中学校にある「たかまつの森」を活用し、生徒たちが学校や自然に対する愛着を育む場を創り上げるために、「たかまつの森プロジェクト」を始めました。

取り組み・成果

「たかまつの森」に散策路をつくるために、丸太切りやウッドチップ敷きの作業を生徒たちが行いました。整備後は、生徒たちによる観察会や近隣の保育園・幼稚園のお散歩などに活用されています。

今後の目標・課題

今後、生まれ変わった「たかまつの森」が、生徒たちの手によってどのような場となり、これが未来の生徒たちに受け継がれていくことが楽しみです。

活動場所：東京都港区高輪（港区立高松中学校） 活動時期：2016年5月7日

マラソンコースに使っていた森

東京都港区にある高松中学校の敷地内には、「たかまつの森」と呼ばれる森があります。当社はこの森を含めて、港区内の幼稚園や小中学校の植栽管理を請け負っています。高松中学校は、区内でも貴重なみどりを持つ中学校ですが、敷地内の森のほとんどに人の出入りが無い状態でした。しかし、以前は生徒たちのマラソンコースに利用されており、学校生活と森が密接に関わっていました。そこで、「森を維持するだけでなく、都会の中での貴重なみどりを感じられる場所として活用して、生徒たちに森への愛着を持ってもらいたい」という思いから、高松中学校の森を整備する活動の検討を始めました。

生徒たちの手で変わる森

活動では、高松中学校の校長先生からの賛同もあり、生徒たちが地域清掃等に参加する「美化ボランティア」という授業の時間を使い、森の中に散策路を整備することに決まりました。授業当日は、植栽管理の作業をしていた坂本植木の職人と当社社員も参

加して、散策路をつくる生徒たちの補助や作業方法を指導しました。生徒たちには、ウッドチップを敷き、散策路の縁に自分たちで切った丸太を設置するといった作業を体験してもらいました。生徒たちにとっても、自分たちの手で森の中に散策路をつくるという貴重な経験になったのではないのでしょうか。

授業の終わりには、森を育てるために整備することの意義や快適な空間にするためのアイデアについて、当社社員から生徒たちに向けて発表しました。

使う人が創って楽しむ空間へ

散策路ができた高松中学校の森では、その後、授業で森の観察会が開催され、多くの生徒たちに利用されています。また、近隣の保育園・幼稚園のお散歩にも利用され、外部の方にも森を楽しんでいただいています。生まれ変わった「たかまつの森」は、生徒たちの手によってこれからどのような空間になっていくのでしょうか。未来の生徒たちにみどりと親しむ場が受け継がれていくことを望みます。



①施工前の森のようす



②丸太を切るのにも一苦労



③切った丸太を園路の縁に置く



④シートの上にウッドチップを敷く



⑤生徒たちの手でつくった散策路が完成



⑥散策路活用のアイデアを生徒たちに紹介